

嵯峨朝の緑釉軒瓦

—平安宮中和院・東寺・西寺—

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



写真1 平安宮中和院出土の緑釉軒丸瓦



写真2 東寺出土の緑釉軒丸瓦



写真3 平安宮中和院出土の緑釉軒平瓦 (京都文化博物館所蔵)

はじめに 平安宮では、主要な施設に緑釉瓦が使用されています。軒先の緑釉軒瓦の型式は、大極殿・豊楽殿と中和院の所用瓦に大別されます。これらは生産された時期や、型押しして文様を表す範(型)が異なります。大極殿・豊楽殿の緑釉瓦は遷都当初の桓武朝にあたります(リーフレット京都 No. 425 参照)。

一方、写真1・3の緑釉瓦は、出土例は少数ですが、中和院の複数地点で認められます。ここでは、中和院所用瓦として注目してみます。

瓦範の移動と緑釉瓦生産 中和院は、内裏外郭に位置し、神事を行う施設です(図1)。写真1・3の緑釉瓦の出土が知られ、栗栖野瓦窯(図2)で生産されたことがわかっ

ています。写真3と同じ栗栖野瓦窯産の緑釉瓦は、東寺・西寺でも出土しています。なお、東寺では、別の範による緑釉瓦も出土しています(写真2)。

ところが、写真1・3と同じ範を用いた瓦は、西賀茂瓦窯でも生産されています。西賀茂瓦窯では施釉しない普通の軒瓦として生産され、平